

OECD-FAO Agricultural Outlook: 2006-2015

Summary in Japanese

OECD-FAO 農業アウトルック：2006～2015年

日本語要約

サマリー

- 世界の農業生産は今後 10 年着実に拡大するが、過去 10 年に比べるとペースは落ちる見込みである。所得の増加と貿易の伸びにより、1 人当たり食料消費量は増加している。1 人当たり食料消費量が増加している要因として、開発途上国ではさらに、現地生産の増加、輸送・製品販売システムの効率化によるコストの低下、都市化と食生活の変化による消費のシフトなどが挙げられる。開発途上国では、食糧穀物より家畜製品や動物飼料がますます重視されるようになっている。先進国では、食料供給への不安に代わり、食品の属性や品質への不安が生じている。
- 世界の農業市場拡大の震源地はますます開発途上国へとシフトしている。特にバルク農産物については、生産能力とインフラへの投資により、生産地が先進国から開発途上国へとシフトしているため、この傾向は予測期間のうちに加速する見込みである。先進国の政策改革は農業生産向け助成の性格を徐々に変化させており、生産水準と生産地に影響を及ぼしている。
- 開発途上国と旧移行国の全体的な生産増加率は、先進国の増加率を上回るが、後発開発途上国については、予測の特徴として基本的な食料用一次産品の純輸入の増加がある。後発開発途上国の場合、生産性の伸びが人口の拡大に追いついていないため、食糧安全保障の世界市場依存度と国際市場価格変動へのエクスポージャーが高まっている。
- 一部の開発途上国や旧移行国の輸出業者が強い競争力を持っているのは、多くの農業一次産品における比較優位を反映したものである。同時に、新技術やアグリビジネス・サプライチェーンの継続的なグローバル化と統合により、今後も加工品が増える方向へと貿易フローは変化していく。しかし、高い貿

易障壁の存続と食品の安全性や環境問題に関連する規制管理により、農業一次産品貿易の予測伸び率はポテンシャルを下回る見込みである。

- 予測期間にわたり、麦と雑穀の世界貿易は微増し、コメの世界貿易は増勢を維持する見込みである。雑穀貿易は、特に自国の飼料需要を満たせない国では、依然として国内家畜生産の拡大と密接に結び付いている。食用植物油と家畜飼料用たんぱく食の旺盛な需要により、脂肪種子と脂肪種子製品の世界生産に占める世界貿易のシェアは、麦と雑穀のシェアを大幅に上回る水準を維持する見込みである。
- 予測期間のエネルギー価格は高水準を維持し、エネルギー集約度の低い一次産品の農業生産と生物燃料生産施設への設備投資に有利に働く見込みである。したがって、米国では、トウモロコシを原料とするエタノール生産が拡大し、トウモロコシの輸出の伸びを抑制する。ブラジルでは、サトウキビを原料とするエタノール生産が大幅に伸びるものの、同国の砂糖の世界市場シェアの拡大がそのために妨げられることはないと予想される。
- 幅広い輸入国の1人当たり所得の増加に牽引されている肉の世界貿易の見通しは、度重なる動物の疫病発生とその予想される悪影響により、鈍化する恐れがある。世界の乳製品価格は、開発途上国、特に東アジア、北アフリカ、中東の需要増と、オセアニアと欧州の伝統的供給国からの輸出伸び悩みにより、今後も強含みで推移する見込みである。
- 世界農業市場の見通しに影響を及ぼす主な不透明材料としては、天候不順による生産の減少、エネルギー価格の動向、生物燃料能力への投資、経済成長見通し、今後の農業政策の動きなどが挙げられる。アウトルックの主な不透明材料は、多角的貿易交渉「ドーハ開発アジェンダ（DDA）」の行方である。世界農業市場の見通しは、農業大国のブラジル、中国、インドの経済発展に大きく左右される。

© OECD 2005

本要約は OECD の公式翻訳ではありません。

本要約の転載は、OECD の著作権と原書名を明記することを条件に許可されます。

多言語版要約は、英語とフランス語で発表された OECD 出版物の抄録を
翻訳したものです。OECD オンラインブックショップから無料で入手できます。
www.oecd.org/bookshop/

お問い合わせは OECD 広報局著作権・翻訳部にお願いいたします。

rights@oecd.org

Fax: +33 (0)1 45 24 94 53

OECD Rights and Translation unit (PAC)
2 rue André-Pascal
75116 Paris
France

Visit our website www.oecd.org/rights/

